

斜里市街近くに3羽のタンチョウ滞在中

斜里市街地に近い美咲地区に6月中旬から3羽のタンチョウが飛来しています。国道244号線沿いや道道斜里美咲線沿いでも見られ、人に対する警戒心も薄い個体ようです。3羽とも首の黒色がやや淡い色をした昨年生まれの若鳥です。最近では8月23日に道道近くの刈り取り後の麦畑でマ察されました。3羽のうち2羽には脚にカラーリングが付いており、昨年限室管内と釧路管内で生まれた個体であることがわかりました。タンチョウは例年春と秋に大栄のトーツル沼周辺の湿地や畑で見られるほか、ウトロなど知床半島部で観察されることもあります。以前に知床博物・ル近くの草地に下りたことがありますが、市街地近くで見られることはこれまで稀で、長く滞在することもありませんでした。

この3羽のタンチョウは畑のほか農家の堆肥場でよく観察されています。餌になる虫でもいるのでしょ

うか。心配もあります。それは農薬中毒です。2002年10月に女満別町で口から泡を吹いて死んでいる2羽のタンチョウが見つかり、農薬の「フェンチオン」による急性中毒死であることがわかりました。人里近くに来ることで心配なことはまだあります。交通事故や電線への衝突事故です。この写真は国道に止めた車内から撮ったものです。交通量の多い国道のすぐ脇にいたのにはびっくりしました。電線衝突や交通事故はタンチョウの主な死因となっています、明治には30～40羽と絶滅の危機にあったタンチョウは長年の保護活動の結果1000羽を数えるほどに回復しました。それとともに市街地近くに現れたり人をあまり恐れない個体も増えてきています。人里近くでも鶴が安心して飛来できる環境をつくりたいものです。(中川 元)



国道沿いの農家庭先に飛来したタンチョウ (05年7月9日)

トピックス

●朝日新聞社発行の「世界遺産 知床の素顔」が入荷しました●地元の山中正実さん、岡田秀明さんが編著者に名前をつらねています●1260円●記念館窓口で販売しています●植物画の清水晶子先生の画集「いのちを描く」も販売中です●2700円●呼人在住の清水先生の植物画は、道新の夕刊でもおなじみですね●8月31日夜、内陸に飛ばされて来たと思われるアカエリヒレアシシギが保護されました●翌日には元気を回復して海岸で放鳥●北からの渡り鳥、もう秋の気配です●8月下旬、漁組から「珍しい魚」が寄贈されました●「テングハギ」でした●図鑑によりますと、「茨城から朝鮮・紅海・アフリカ・ハワイに分布」とありました●暖流ののって、南の魚が知床沖まで来てしまったようです。



テングハギ(2005.8.30)真鯉沖

発行 斜里町立知床博物館協力会 2005.8.31

099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内

TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257

<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>